

令和3年度技術士二次試験 口頭試験概要

- 部 門：上下水道（上水道及び工業用水道）
- 日 時：令和3年12月26日(日)午後 25分間
- 場 所：市ヶ谷カンファレンスセンター 4階
- 試験官：3名（A：50代の国の役人？ B：60代の学識有識者？ C：50代の事務局？）
※座席配置は右側から試験官A、C、B、プラ板を挟んで3m程度離隔
- 受験者：地方公務員、50代、技術職
- 業務内容の詳細：公営企業事業の経営計画の策定（老朽化・耐震対策の推進等）について

<全体の流れ>

- ・ 試験官C（進行役）より、マスクを外しての本人確認後、面接開始する旨説明。
- ・ 試験官Aより、昨日はホテルに宿泊しましたか、雪が多く降っており心配ですね、緊張せずリラックスしてやりましょうと挨拶。
- ・ 試験官Aより、勤務先の確認、業務内容の詳細の確認、マネジメント、リーダーシップ、コミュニケーション、評価について、受験申込書に記載された各コンピテンシーの定義を少しかみ砕いて質問。
- ・ 試験官Bより、継続研鑽、技術者倫理の順で質問。
- ・ 試験官Cより、A、Bから他に質問がないことを確認し追加質問し終了。
- ・ 業務経歴、業務内容の詳細についての説明要求なし。

<質問概要>

○試験官A

- ・ 業務内容の詳細において、技術的課題は何か。（経営計画は資金面の調整が主体で技術的課題が見えにくかったため聞かれたものと推測）
- ・ この業務の中でマネジメント（定義を説明しながらの質問）した内容は。
- ・ この業務の中でリーダーシップ（定義を説明しながらの質問）をとった内容は。
 - ・ アセットマネジメントとは具体的にどのような手法を言うのか。またどのように進めたのか。（アセットマネジメントを活用して費用の平準化等に努めたことを説明したため）
 - ・ 耐震化を行う上で、浄水場と管路の資産割合は。（浄水場を優先に耐震化する旨を説明したため）
 - ・ 施設の経過年数は。
- ・ この業務の中で、コミュニケーション（定義を説明しながらの質問）をどのようにとったのか。
- ・ この業務の評価と改善点は。

○試験官B

- ・ 過去5ヶ年間で自己研鑽した事例は。
 - ・ 論文発表はあるか。（資格取得のみ説明したため）

- ・ 今後の抱負は。
 - ・ 職員への技術指導はどのようにしているのか。(抱負として職員への技術指導を説明したため)
- ・ 業務を行う上で技術者倫理に配慮していることは。
- ・ 業務におけるアカウンタビリティはどうしているのか。
- ・ 先程の試験官Aの質問と重複するが、利害関係を調整した事例を同じ内容でもよいし他の事例でもよいので説明して下さい。←料金改定協議を事例に説明。

○試験官C

- ・ 浄水場内における耐震化手順は。

○所感

- ・ 口頭試験セミナーおよび APEC-semi 口頭試験模擬試験の計2回の模擬面接を受けて本番に臨みました。セミナーでもアドバイスを頂きましたが、本当に計3回の模擬面接をした方が安心して本番に臨めると思いました。私の場合は1回目のセミナーでコンピテンシーの本質をご教授頂き、2回目の模擬試験で既に試験を臨まれた方の情報を頂き、本番も同様な出題傾向であったため何とか対応できました。
- ・ 業務経歴および業務詳細の内容について冒頭の説明機会はなく、すぐにコンピテンシーに関する質問に入り、模擬試験で出題傾向を事前にご教授頂かなかった場合、かなり動揺していたと思います。回答にあたっては、試験官がどこまで業務詳細の内容を理解しているかどうか分からないので、事前にコンピテンシーを説明する際に補足して説明し理解を求めました。
- ・ 各コンピテンシーとも業務内容の理解度を確認する意味合いも含め、更問いとして技術用語や作業手順等の確認がありましたが、現場状況の説明をする際になかなか理解してもらえず説明に時間がかかりました。現場状況が理解できるような簡潔な説明が必要と反省しました。また、業務経歴等の記載においても冒頭の説明機会はなく口頭試験では補足困難であることを前提とした書類作成が必要と感じました。
- ・ 今回の口頭試験を通じて、過去の業務の振り返りだけでなく後進の指導を行う上でも非常に勉強になりました。ご指導を頂いた講師の方々のように信頼される技術士となれるように自己研鑽に努めたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。

以 上